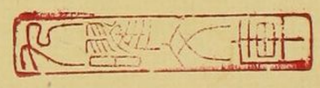
新千載和歌集中



新千載和歌集巻第七

離別歌

命婦乳母とゝきこゆるまうけふゝみを
法りすゝめて　上東門院

思出の雲のなかにてゝらすらけふ遠ゝ
加賀乳母こゝのゝ日へてゝらすに歌をよ
ゝて　安嘉門院御歌

ゆくすゑをとゝ思ふゝゝ思ふゝゝ吹上の浜の風はつきせじ
朱雀院の御所に花の宴の歌をよめるけふこゝのゝ少ゝらしたゝ　権中納言敦忠

とゝのふるゝゝよりはてつゝゝゝとて
ゝゝ行けゝ

ゝゝをしひゝゝゝ原の思ふ弟にて上ゝ行ゝ
ゝゝとゝふ歌ゝゝ人ゝ中ゝゝゝとて
てゝゝゝけゝ　和泉式部

あゝ行ゝゝゝゝゝゝなゝゝゝゝゝゝ

いとこのひてかうしひけるものかたこそ見ゆるふ
まそてうりくれいうのかたもはりもうふつ
うしけり

極楽

あまこの屋うれ玉ねよいうふてうりなれ宮じてゆえ
人のりのへまうりもうふ人ようりて猿く
はうしけり

貫之

あつへてうるふとこふんそ我身とうう形見ゆけま
うつもに三さふうしあうりあうさ猿ひも
うう中ようりやに猿井ふてうつ下り
かうさつを行けり

法成寺入道前関白太政大臣

第拾猿のやうに家考くそうりの風をふうん

遊

紀式部

猿ふへさ猿ようあねと第拾波乃家ふうくこそなき
りのへ行けりへ人ようのうさはうすそて

中務

元うり行無ふよう扇うふ人ふうの風をゆうう人
百うう分めはけうう河離別

崇徳院御製

おうう法立わうとも七さくなう井のうに宗ふとあふ
花京ふうつとき水ふ人ようりてうり

けふ餞あまたふたて　九条右大臣

あきくまの松いく世ふるとなくてうゑてのちの
まつとしさうふとしとをまつ世をかけて

伏見院御製

よ

ゆくへまよはしきふとしてよひらのみねの雪のつもれに
法眼よしてらの行幸前大納言公雄卿
しらとてつるすとて家これ月をひ
ひらめやとしてうゑをかるの下

後京實方卿

しらてん彩のうへの月よこみの下てうゑ今ゑ面をて
今つてこ舞景殿よりのかをいふ程よ
義人これをけうてはのうゑ仕よ法ゆ
りゆさんとて此りのいとこりをとの
きむとうふすかはりあまりの人今れ
しやて月よさうはもきうふて
いひく

前大納言公任

西の月ひてうちかすこ雲ふへとをわうとを
なう月のうちうれあよ面りる人よ餞をて
法性寺入道お開白太政大臣

我ひとりしらふ家のつりをせんとて舟をかりまほしき
あつまやのうしろにてうりけるを母のりたにゆうり
て嘆うつるとてしるせる

従二位為継

よのつねふねにていうたるをなぶりかなるうん
常法寺へまゐりけるによりて考

紀宗春朝臣

身をやつしてうらにおもむきまちをみるにゆうをうる
三月一日乃比丘尼

藤子内親王家紀伊

とひつぼんにうりいるうんを家へうる事ありとも
大江公資朝臣ふなりてうりけるふ
ぜうりけり

能因法師

あるとひとそこの杜風の清乃ゝ宮とこえんとすん
別乃ゝを

藤原宗遠

こえぬまの月開とゝもて松原のあらし
とひ乃ゝ外れるふしてあつさ乃ゝこゝ
つとけり河よ宝飯と宝飯とこゆとそとひつ考ふ

権中納言具房

四ゝ月ゝ月ゝ乃ゝ月ゝ

大石彩雲こゝにまうり考て問ひつゝけり

勸意法師

いさゝかとゝひるゝ人やうにたゝまつる所なり

法の道あらはすとふ所ゝすゝめ給ふ

こゝろ人のまゝにさとりて給ふべきなり

菊原雅房

悪ゝ所ゝの物ゝさい我ゝ所ゝ面ゝさとり

途中にまゝにて給ふ人ゝに餞ゝ給ふ

三吉須連

ゝあり

ひとゝひとゝひとゝ中ゝにゝとゝゝゝゝて宮門の高位世

こゝにまうりけり人ゝ

禪心法師

行末ゝゝゝ山路ゝゝゝ世ゝ物を別のなゝさあゝ

あつまのゝゝゝゝゝて思ひつゝ考ゝ

ゝゝ人ゝゝゝ

所ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

神ゝゝゝゝゝ

新千載和歌集巻第八

羇旅歌

[illegible]　貫之

[illegible]

文永八年七月七日白川殿にて人〻[illegible]

[illegible]

後鳥羽院御製

[illegible]

海路の[illegible]

法皇御製

[illegible]

東三條院石山にこもりゐて侍りけるに九月つ

こもりの日ふるあめをなげきて侍りける

しぐれやり

一條院御製

[illegible]

入唐の時よめる　藏人法師

[illegible]

[illegible]

源頼実

[illegible]

正治二年百首歌の中に羇旅

陸奥国

前大僧正賢俊

陸奥国

津守国量

法印宗昭

津河法師

前大納言為氏

猿人はいかそいとらんなるみてこそ
あれ小まつ世
都元百ゝゝ年あてまつりける時
贈従三位為子

とめすさてやとまれは清見ゝ月みてや宮ゝ
鄙ゝ
行脚人ゝ
権僧正覚伝

東坂の雲いかゝ
みちもなくまよひてまこと
月の世をいかゝ
如雄法師

東ゝの雲ゝ
けさい光蔵の
光蔵ゝ
後醍醐院の
小原蔵ゝ
けり
いとなとゝ
建仁元年五十ゝ
野逗月
行脚ゝ
原
前中納言定家

行ゝまゝ
不思ゝ
ゝ
ゝ

めでたかるべき月の日の未の時に遠方の武義の京
より
従二位為理
第五番 猿楽 猿楽の子孫 自敬三位 武義
菊原雅家
そもそもぬ月の日の武義のとらのふすまの神
家より行方と合給ける河野殿の秋の
お中納言定資
ぬまてかとらそもそもぬしのやうなる神の
より
道命法師
あるかなきかのよのうきもそいつちとも
世中とみなひとにはまうてんとおもひてあの
はらさまらてはのの玉ひやうこの稚名寺
とふちよりはけりへまうしをふれ
三月とふ前よりてふる星乃
のこるまれてうきすんちしは
けるかりしも八月十五夜乃月つ西
なきそれ中きい部ふくんまも
かうしはけいはひつをしは
権中納言為明女
月とそなふれかとも三つ

題しらず

春はあけぬるかとみる床の梅はなほ秋ながら月はたちけり

源基氏朝臣

梅ばかりなほ春の花なれどうぐいすかとぞ聞こえける

大江宗秀

越えてこそ梅はなほ出初めてむ雪を踏みわけ月をたずねん

前元百首に為尭

和歌所にて春の月はいくたびかあはれなるらん

信中納言公雄

津守國助

梅はなほ春とも知らぬ雪の下にうぐいすかとぞ聞こえける

道摂法師

角田河にて

見わたせば春はなほ雪のうぐいすかとぞ聞こえける

前大納言為定

梅花

世中はいかにうぐいすなくらんてんのりたにつくりけり

藤原雅朝卿

ひとやまの月はなほ雪の梅の花をさかさまにうつす鏡なりけり

張乃介ゝてまあり

行基菩薩ゝしてゝ世ゝいの藤原ゝよりハ

権大納言公忠

中文大文公宗一世

ゝ為ゝてゝ来ゝ家ゝ

後伏見院御製

新勅撰ゝ玉ゝ

ゝ家ゝ

ゝ

ゝ

羇中くれと

秋のゝふやとりとをれい蓋くさく被の下ふ明迄　源義昌

ゆくて暗ふ乃末をとくくとゆくと星をくたる猿　藤原泰宗

いはまゆあをれ河ふ乃ぬまをてみゆの月さびゆくまんと　藤生法師

正治二年百首奇ゆ猿

岩ねふむ山の角をれ月をとゆ音ゆ聞つゝ　惟明親王

郭公　土御門院御製

明石ゝゝゝ

二月廿日歌五首 勝

猿の声とてこゝもあり

津守國助

あらし山のこゝろゆきてもとめぬれとたゝふかぬ夕暮

大江義重

宮ゐのこゝろこゝろねとこゝにこそいつるにやれ中山

藤原公右

東路のさやの中山越ていつるいこゝ新やとをしらん

さやの山とすさ侍りて

信生法師

我ゆゑもふまぬ人よ中山

源頼康

思出てしらふ西の方ちはの月西ふ見えぬ中山

後法性寺入道前関白太政大臣よ侍りし時

家よ百首こゝろ侍りし猿の声

皇太后宮大夫俊成

月数ゆく第の花とうそ重ハ家とき立つ中山

前中納言定家

月しらす

吹ゝ松風乃山風さもしるよ夜半ゝ月

正治二年百首歌たてまつりし時 藤原定家

嵐吹くみねの雲とたなびきて花ぞ散りしく吉野山かな

弘長元年百首歌たてまつりし時 前大納言忠良

しらくもの

都出て日数へぬれば春のかすみ

新千載和歌集巻第九

釋教歌

天王寺にまうでて二諦の法文を百首歌

よろづ代の中に 前大僧正慈鎮

ふるしゆゑやとふ人なくなりぬれば

大乗の法にて詠る

六道 二首 親王法守

六道にまよひてなれる眼のいろ

澄覚法親王

六趣のなかにまよひてなれる眼

[illegible]

後西園寺入道前太政大臣

[illegible]

法印覺院御製

[illegible]

[illegible]

[illegible]

法華寺住

前大納言為家卿忌日法眼源兼性
様式乃ゝと毛ゝ
日一乃開者天下皆去ゝ

前大納言為世

罪深き身の毛ゝ
祥林春朝乃色自増観念

贈従三位為子

風吹去乃林乃名ゝ
ゝけ毛ゝ

秋宮一代乃流教と河離の結集毛ゝ
ゝと毛ゝて

権少僧都宥寛耀

ゝ毛ゝ
ゝ毛ゝ

武蔵寺ゝ佛事乃庭ゝ
ゝみゝ

前参議雅有

風と久ゝ
大鏡智ゝ

お大師ゝ良覚

ゝ久ゝ
ゝ毛ゝ

子首ゝ

ます鏡うつる影とそのまゝにありとみるゝ面とおもはれ
有為転仏夢の中権果いつるんと
前大僧正慶守
面を鏡にかけてうつるかとおもへはうれしさもまさりけり
宿命通乃影のうつるとも
了然上人
今そうつる世々とうまれしかたをしる人と鏡とおもひ面とも
法二象徒をうれしかををしてのはるれ水晴乃
影鏡とつゝいはまとて仏乃ゝと七日光明言
はゝとおりてうへしうつるとて
前大僧正禅助
影鏡ゝ花まてもあるさくらかな
西蓮門院
月迄
見そなはすうれしいとも面す鏡ありしともなき義面け
大義乃中に
お大僧正忠源
七そうれ月迄ゝ義そとも思ふとうつりれ
前大僧正頼仲
いつまてなき眠の義覚てうしそ面ゝのうつと思ん
法印覚懐
乃あやそさとを鏡乃なき義よ義ゝ世義覚ん

西園寺内大臣女

昌義法師

信解ふつんと

有原宗秀

恵鎮上人

唯識論乃んつ

法之信為理

勸遍計所執唯虛妄

前大僧正覚實

尋思施名言道斷唯真聖者自内証

證入とは

いはゆる一切の法をあるがままにしるなり

前大僧正玄通

如是法師

この菩提心を内に秘して外に現ずれば

如是體と

入道二品親王法守

ありのままの二諦をよく内に観ずれば

貞和二年百ヶ日の間

一心不生にして生なきを知るなり

等持院殿

還帰本理一念三千の心を

法華澄俊

いかなる人間この身をうけ

前大僧正慈鎮

ここにて生死を出ずべし

権僧正恒覚

延長十八年八月八講をこうじ

法華心乃至一念信心

貞伝云

仁王経奉持所有恵如雲遍満於虚空
のこと　法印定為
たえぬさとりの雲やみちあふれぬる法の雨をそそぎ
五〻諸仏常与師俱生とこそ
生生法師
〻〻家のつとめたちそひて第業よやそ月新
宣旨中三位　法印憲實
ありてせめてはむるこそ新月をみる
要量所廃遠那年乃こと
法印朝因
あらはるるとき聖教ひろめそめて月をみる
千首ようよませけるに
法印定為
水の面ふるさと月八光をみるえてをこそ
元亨二年八月十五日和歌
二品法親王覚助
あはれとてくもあり升あの乃庵もとてんよりて五月の月
止観法義のほとをみてつくけり
前大納言為家
秋ちかしくりぬ月とたのむ武年へ法の乃ちとの乃

遊一

法師成運

いく秋の月を契りてみしの雲の影ふるく
法勝寺寛信の中をてりけり

右京基俊

月影のさやかに山の入ぬるに扇をそふる
宮月秋散とのつゝみを

法師宗尋

心ゝの月のとゝまりていく世のやしまもひさかたの
三島社の本地乃尊をとゝめふをき
てゝまをせるてりけり三月中に

大蔵卿直義

くゝさゝらてきふ山ゝふもとあ月を行そふる
贈従二位為子
行けり三月のうゝと見うゝて法花経を
ゝゝかさて山さゝ山をゝて春
紙乃絵ゝせ行けり二の巻ゝを
民部卿乃為ふら

いまそう我身ひとつ乃ゝそ乃ゝ月とみき
ゝ乃ゝ

前大僧正道玄

村雲乃ゝ三ゝ乃ゝそ乃ゝ月乃ゝ

金剛經言語滅分と

源和氏

ものとりあつめたるひとをとてみやこの月をやけるん

前東基世女

独もむかしの月をもむといはせうさ雲いめふとかからす

松風と宴坐せしあと　朗月と涌習線と

たくはうこ絡をる　高弁上人

心月はもむよ雲の雲晴て解脱の月は松風をふく

ふかれてしあるへきさとりなれい

芳賀上人

ぬるさ夢の雲まにひとりもむ月の新吹をとこ巌の松

欲心は不生法乃ふと

前大僧正宗伊

見て月のゆくをやこれ夢の海雲乃そ

彩子　ら

いとふへきこの雲となりもしく山路乃秋の月

欲子内親王

心欲不二境智冥一乃心と

權律師良憲

ものとしまふとみた雲ふ雲ふ雲ふ月の新

大数と

お大僧正慈英

法華経のこゝろをかゝらすのたまに月をみてほ
元亨三年八月十五夜月五十そ之ゆめさ
もつゝ次よ　後宇多院御製

あつまのくにゝくらしつゝ胸のうちに月の影よりいとゝもしゝ
前大僧正慈鎮おほけなく浮世の民におほふ
ふゝ墨染ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

なのりする雲のはたてに月みてはるかに思ふ人のこころを

如宣上人

ふる雨

雨ゆゑにあの山ぶかき中にふる雨をなにとなるらん

六條入道前太政大臣

さらぬだにそらふる月を雨ゆゑにいかにかなるらんとおもふ

宰相入道親王性助

雨ゆゑに月よ契をなすてしんよるはいかにとなるらん

法印

愚なる身はいとをかしかりしの雲むしろへてまつ思ひてんあるふるきこんよ

源宣上人

名留半産業花業待我同字同名人と

潮宣上人

みをうやとなるのまふ物てをもあるよ我をまんてあるしをうわるの月ゆりふけて一回り

阿弥陀仏諸上善人俱会一処のこと

法印宣為

ちぎりてをもあるこそ蓮はなの義なるをまつ月ゆりふけて

必未浄花前生覚花紀生のこと

法眼行願

家の月はなを春とたのむさくらも世を経の春
家のまへとは師の山をみるへしとりらて
とりけりといつくへ行そとこの世けまし
もえの山は会の山のあてもよもあんりてま
ふかいひそれいもしもひつまは

和泉式部

あふ花て五月さらりあるおとうまとのかもの
郭一ら

撥無世界

なのむそよ五月さらふくとともそね行ちひもと

玄量秀恵戒建無世界とのこと

源邦長卿

世よこの撥乃海月をつて西の国いろと白世
禅林式のことと思そて罪八ちつと
けふ弘撥乃弟よ所のさてあまつく罪生
の波治とまさらんとふと

前大納言為家

今ままて撥乃海波ちるき波よ人いと世
万葉の翔うてよまま世行けの所中に
みもあいめやといつと

祇園院御製

法の師の法の乃りを聞ばかな
法の師の法の乃りを聞ばかな

法印雲禅

数多ぬ開乃ふち河うく舟の法乃舟めうや世よう渡

右京景綱

ふ世すたらりをそ世の道舟のつとうをそうに我身成り

民部卿為家一回よ結縁法華経書しを時

女量義経の十功徳品と

大江廣房

ふりをと永乃りとあよ法華のりをとまてうへをとなて

権大僧都長厳

いふて法の乃乃乃をそなをふるまをうにんひまは

建武二年四月裏うて人々ゑ歌とさうて

五月雨ふる時ほとゝぎすを聞て千鳥乃可に

前大僧正覚円

無ぬ〻さ法の流乃なるるにのうにをくそさく

竹林院入道左大臣の二月三日乃法華会に

てふ永福門院の乃るのおりめいてうの

院乃内侍よ給はせける

光厳院法皇御製

めでたかるべき事なり

返し　　永福門院内侍

あまのすむ海ちかき浦にかよひけむ跡ふる宿の蘆の葉

文和二年十一月廿日園城寺乃仏事

法皇御ぶくうせ給ひて法花経の料紙に同経

の要文をもて部ごとに分つ事ども

ありけるに辞喩の今日乃知真是仏子の

心と

今そとく廣き恵の法雨晴てのちにぞ知る師子の吼

入道親王尊円

権少僧都　源信

建武二年　内裏にて人々部をさだめて和

哥ありけるに法花の奇しき

入道二品親王尊円

戒山の殿七百年にかよふ不偷盗戒乃心

諸人のこゝろをすかくる東にそ山吹の花

安不犯不不統他人好悪長短

[illegible]

前権僧正玄秀

普門品還著於本人のくを

[illegible]

お大納言為世

大八洲もろもろの人をなびかすと思ふ

法のうやなかぬよりあつまりつどひ人々めでのいとを

八条院高倉

一流奥自述しるすと思ひく

前大僧正慈勝

いさきよ[illegible]

秋萩の中に

大僧正忠性

[illegible]

前大僧正道玄

[illegible]

権大僧都[illegible]玄

[illegible]

僧正實秀

[illegible]

法眼尋源

法をとなへ世にあらはすやうは乃流々にさはりあ
遠江國一百餘寺いとゝ宮古の草創の
しるしのかけうせてなきあり

權僧正良聖

いかゝやとこの山門の流をあらはすあかれ
建武二年四月裏うへ人〻ゆきとりてふ
ゆゝしかりしまつりける時狀歌

二尊法親王慈道

濁をとゝまゝ世のあらはれ人乃心ふかけさえ
ゆゝしかりしかな

みよしの

くりうゝ紀世中ゆかりにしたまゝ胸乃まゝかり
光園院七年乃四遠忌ゆ激安院より
法花經ふかゝ文をとゝにしたまゝ
經の料紙ゆふ乃まきりけるふの四種を
乃ゝ乃てまつりて如來乃りゝをとりけ
入道お土改大臣

なゝ世の月日ふみゝ世業ゆ家乃白玉光をあ
宮玉大數とゝ給けふ

法印禪澄

玉ゝ乃衣のゝゝとゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃ゝ乃

五百才子ホトケのんを

法華成運

法ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

武部ゝ久明親王

号道法親王ふ法門授奉てまつりけ
ひとさゝ給はけり

法布栄運

清水よこりとゝ行のそ[illegible]て長とゝ
いりあひくゝりともり法おこなひ
てさつりてしさゝのまにきた
けつゝ寂まし

[illegible]武部

[illegible]光よあつらゝ灯のあ[illegible]さ
遍一

伊勢大補

右ちさりとゝ[illegible]光なゝ[illegible]へて
万年三寿滅世後百年とゝ

覚宣上人

立ゝぬけやゝ[illegible]ん[illegible]毋の[illegible]て照を法[illegible]央
彰一寺

二尊法親王寛尊

ゝけを法の灯さゝあまふあ月ちゝゝ蛭さ

中務ゝ宗号親王

新千載和歌集巻第十

神祇

熊山殿七百首歌 平野

後宇多院御製

今をかぎりの世の人の強まさりてゆるしむ祇園
建長門院御製 社まもりて世を治めふ
ちりの上をはらはなりふみ作者
頼人しらず

ちはやふる東聖の松をたのみ
人々小百首歌 神祇

ふるやの神のたまうけ給はる
ものなり　後二条院御製

ちりそしく日新のつくりしを　千代をそへつる神の山藤
　　順徳院御製

法京極摂政家百首の内に
　　前中納言定家

神代より契ありてや山あゐもとりかの色のそめん
　　冬の神祇とりつくとて　伏見院御製

天の戸の明て昔をしたひて神代よりいとなむ冬の色

文保百首の内あそびつかひける時
　　法皇宣旨

天地の神もまもれ時の華平野や神の七代のあそびん
　　百首の内めさしける時
　　後醍醐院御製

天の戸の明て月日をうけ給はる神代のひらけなるかな
　　神祇の中に　二品法親王道

天の原岩戸の神の心ひつきをうけ給はる世ふる雨
　　建武二年内裏の百首の内雑歌とて
　　御製

ふるとなりてこそ雨そまつりける

藤原盛徳

あまの原いくとせ経ぬ神代よりいまも絶えぬ糸竹の音

中臣祐親

かしこまりすみの江の猿ぬけそこ岩をいそぐ月の光

ふるのやしろにて月をながめて

荒木田氏忠

我身のむ神路の山を出るより身をてるかぎり月の影

荒木田氏久

神祇官より

夫婦ともにかりむつまじひとりかな

和元百ぢかくまつり考る祝

神ちかうちとせやのゆふかけて代々をけて光まさるらん

貞和元年豊受大神宮遷宮奉行の

とき神宮御撰米ふて拵ふして

を給ける

小槻達憲

元の代よりあをを車に綿そ神のまつりの

荒木朝村

ふる知

ふるさと山いさ実ことえふとなりもふすと神小祝

ゆりとる力とやあらいを河のせふけて行のかな

よろ人しら波

神祇とうませ給へる

院御歌

玲瓏河やそせの波もあらわふを秋ぞ世とは知すす

神祇伯資茂

神風や乃りすそ川の玉ぐしをかやそふん

芸州田守藤

ちとせ海さ神ちれ山そともみもとそ河のふうれなそ

法二位常昌

こゝやこのあまてる神乃宮地と海りさしたりさ

百ちとりあそ乃りしゝ対祝云

乃へ野出代乃毎日京ふ

歌一首

大納言藤實母

なつつ神ぶ乃へいそ川ゆくたのむと

權僧正良瑜

なのりそてつ戒へ

普光園入道前関白左大臣

正安四年宮後宮歌合

久河出ふ乃ふさ

伊勢神宮

はるまつりけふ

前中納言澄長

あまてらすわかいらつめ神代より今にいたるまで
たゆまず信心をいたすべきものなり
かくのごとくせば結びつふ神祇と
源形氏
ちはやぶる神のちかひもいやつぎに
絶ずらす　源為氏卿
えにしをかけてむ神のちかひをば
鴨長明
うらたのむ神ぞなほかしこきかぎりなきこと結びつ賀茂より西にてまつりあり

前右近大将家歌
我たのむうぢ河なかれ
おろし　神よりそてさつりけつ
お大網公為定
今をかぎりのことわり昔より
絶ずらす　賀茂より西にて神つの浦
年をへぬ
賀茂教久
一ちはやぶるかみの
従二位信久
宮乃ふりけつ
賀茂社より北

行けるふ前大納言為世いまゝ中納言
はるとしに行けるりゝへ林の枝よりもてや
をりもせ

後二位民久

年とてくらるぬ名人ぢきこゝにつるみゆきに神そうえん
こゝのへ　さこうめして

亀山院御歌

けさこそ行くんの行みえてたのもとうる雪とゆふ

貞和元年十一月源河祭行事舞人
まそなり　社より南へてけるに河雪ふりなり
けるいとあり

よゝ人　不知

そゝそゝとうりあらふ雪ゝ衣神乃面よりぬきて
源河祭の舞ノ人はゝあ行て還立の出祭
ふあひくゝひつけける

前原雅房

三月ふかりの月ふこうてうら雲かゝたる夕会ふ
文保百ゝ百ゝあそうりける時

後山中前大臣

曉の星ふ光もかのふくゝ名ふ名ふとゝふあさこの忘
貞和二年百ゝ百ゝあそまうり時

入道お左大臣

第七世中世紀ごろ忌部氏祝を久しく代々勤る
當社八幡宮祭ごとに山ごもりして西の宮とり
なしとなりて社のわんとりまこと行
事八月一世まつりすまれゆく海と
なりしはいまもまこと行ける

法三位氏久

元さうへく如行世ごろ昔よりのまこと今ねい
ぶ一年

三條入道おほたの殿

西園寺ごろぬみさぶ山ごもりたのむよりまて神ぶ
法性ごろ入道前實自殿信

神のまつりこと第七の月新乃月まてもいのりの式
前大納言乃世ごろまこと行ける吉日社世首
ごろ中に

中臣祐春

祝部ごろ二てこひ照ごて月日をこひこと神やうん
延長世一年京極乃ごやごん正吉日社ごろ
まこて行ける日やまこの宮ごつくさにこと
つくこと

船恒

原乃ごすれ殿への第ごと本ごふこと吉に行ごと
坂宮西代宰相典侍吉日社ごろ合こて
人ごまこと世行こ神祇乃ごと

前大納言為定

加茂山ふかくへて海波の梢ふかき初霜の色もん

元弘三年立后月次屏風に春日詣の図

式部卿宮

春ちかくふるさとをしたまへるふるさとの花の下を

後醍醐院御製

春ちかくなる梅を分て春日詣の社に神まつる

等持院贈左大臣

関侍従行幸の時春日祭に立ちしもしも

ちかくとおもひく

花園院御製

神まつるこの春ふかくふるさとの春

百首うたのうち時雨

前関白

時雨のあとのあかつきの空すみわたるよ秋をへぬ

春日大明神社壇のうめ時風春雨等

神垂ふるさとの春ふかくうつりてはいまは

いかなる春をかたて中国に世のうつるにつれ

やはらげる時雨の世まもてを世ふる孫をも

しつかへきて流し給ひけるとかなり

けなさとおもひくらべ給ひ

中院右府

祇園会の古式の業とて人々打たのむ

述懐の中に　　前大僧正良信

ひとりとて跡の世までとたのむ身ぞ残る

寄松述懐といへる　　お春後為長

一本松の世のあはれ老木にて木たちくもれる年を経し

嘉元百首の内　　津守国冬

神垣は我そいとけ榊葉の夕付鳥の忘れもてこそ

元亨四年住吉社歌合　　住吉神社

社頭の合　　津守国夏

なをこの世すゑ末の代のためしとて神とあがめつる

弘安八年住吉の社にて行法述懐

ふるさと海せれ絶せしつるまつりけり

前大納言為兼

古小考の社と聞て住の江の浦ふる系

貞和二年百首の内　　入道二品親王尊円

天代より行わひの業なれ共ありてちらぬ花さく

社務乃はふてひの遷宮のあひあること
ゝひ〳〵　津守國平

はるへてを久〳〵ぬるうきふてひらるゝ代よりて
前大納言為世卿の歌
うら合〳〵　はけりふる神祇　権中納言為明

世〳〵ふるゆゑやうれよいひ初きん安藤の乃
等拾代給た家てよゝ給りる事
の中にあるゝんと　藤原長秀

給乃杉のもとかゝすゝ神代よりゝまゝ三ゝ世の乃
影〳〵ら　津守國夏

神ゝさやぬさをけて清き見つゝ松ゝ乃
　清水原給

ゝやぬゝ神乃その社たなれるきて代の末ちゝ
　祝部成熙

百年とやゝ多ひ遠〳〵神代ゝ古て長き三ゝ流去
　前僧正慈勝

ゝ流の五ゝ色ハ緑ゝ松ゝそのゝ三ゝ乃かゝ長き
　二条清親王慈道

沼田氏神乃御幸ハ古ヨリ行乃事

法印覚為

あくひなき新たのそらひとつなれ一年ハ三の浜去

前大僧正慈順

たのむそよふハ社乃数〳〵ふ乃の〻神とハ

権僧正慈傳

りゆふ我神ハ〻ハ乃縄〻へてもあまるのめ〻

左兵衛督直義朝臣

七〻〻ハ乃中に新感開ハ〻〻〻

源和義

山橋咲そふ氏の神頃〻〻のやへ〻きハ雲〻〻そみ〻

祝部四長

神〻〻に我身やそ〻ハ家ふ〻て老乃ハ〻そふ乃ハ乃月

宮人権現い云動寺座主慶命乃時よ

つ〻〻に〻ふ〻あ〻て〻〻〻〻〻〻〻〻〻

てよ〻〻

前大僧正道玄

〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻

法体日吉社乃立願乃しるしあ〻

と祈師前大僧正乙什祈請結ハ〻ふ

世原瑞夢ハ〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻

ありけるに感動勅書をてづから書
しるしたりしをみて詠ける
僧正遍昭

たづぬ代といふ形をみる蓮をたづねの神のめぐりあひ
神祇の中に　源清民朝臣

くて世をもむしろにのべる石清水のみなそこをきよき
貞和二年百首の内　時
人もわすれぬ石清水さよふかき流のきよ
等持院贈太上

新千載和歌集巻第十一
恋歌一
平貞文家の歌合り　在原元方

をとこのあやまちをしてのち初てをとこにあひたる女にしら
せをこせて　躬恒

下紐のとけてかりをかさねてもたのもしきかな恋のなかれ
たれをかのこうちにむすびつるいつまで通ふ
こころなりけり　馬内侍

人をとしをふるこの世をうれいゆきとけよ老ぬ[illegible]

世をつくり者　清信公

老ぬとて人のいとひ給ふこゝろにいつかは

うゝめて人はなげかるけり

西宮左大臣

我ひとり思ふ心をさらふるとんとやうきて忘せん

百年をすめしけるつくふ

崇徳院御製

むかしあふ物をみるとみる物ゆゑふるとけしめん

いとゝの行ゝさとゝてゝあり

東京業平卿

返し

うわゝねよ老にゝあるゝ第をゝのむもとゝとゝふ

ゝゝ人ふゝ

ゝゝ第のゝゝめしゝさゝゝゝ

意俊ぬあふとも見れば山の岩りこしてけれのこゝろ
もとまて
ふるや神のこゝろまて池のなかれまこひとゝなたのこゝろ
よゝ人〳〵らす
そそ
弘元百ゝ六年あてまつりける時初意
贈従二位為子
ゝ
ゝ
ゝ

うちつきはまふんてさくらはやとゝ
　　　

建仁元年五十首うたあはせうたのまきのうち
寄風恋
望月后宮大夫俊盛
いつもいろかはらぬ秋はあれどなほ
風ぞ恋しきものとなりける
孫正平親宗
いかばかりあれぬる秋の暮ぬらん
はぎ原ばかりなほあらしをぞ
如覚法師
ふきとをしかぜのあらしの山のしたかぜ
百ぢをかけてまつ時雨ぞ
二条院親王号風
初恋
あはれとはたのまずなりぬ風のつてそれ
前僧正道性
あらぬ秋の夕ぬるかぜ
源為朝
たちかへるあはれとぞ思ふ恋ぞ
貞和二年百ぢをかけまつ時
寄風恋
なびかぬ人をなびけぬ
為道卿

そこなひてかの母とりこまれぬるこの事聞きて
いとあはれなる事なりとぞ人〻いひける
何ぞとこそはわりなきあくがれやこひしきあはれ
建武二年内裏にて人〻歌よみてまゐりける時
忘天象と云
しらくも
前大納言資季
雲ぬけてかたらふるにこそあはれ
惟宗光之卿
弘安百首にあてまゐりける時
典侍親子朝臣
はるかんの行くすゑとおもふにもあはれ
元亨二年七月八日の比二首
はるまつりけるつゐでに思不違忘
いつしかとまちぞ侘ける
法勝寺御願
うらとなる星の光にうつるかなかすみの中にまちぞ侘
式部卿恒明親王

[illegible]

治二年三月紀伊国合力

正二位隆教

[illegible]

初意乃[illegible]

伏見院御製

[illegible]

住吉明神より十首の歌をたてまつりけるを

侍従為親

永意

[illegible]

津守国道

[illegible]

住吉明神の神乃[illegible]

[illegible]

つ[illegible]りけるに

権大納言公明

[illegible]

意の[illegible]中に

西園寺内大臣

[illegible]

後西園寺入道太政大臣家の十首歌よ

悪霊

前大納言為世

しもとゝもとのふるたゝえの滝とそをりつゝ神のゝやゝ

同人

遍智門院

滝よりてゝ紅葉ゝりゝ水ゝゝせゝゝ神の滝ゝゝ

左衛門督為忠

人ゝゝあんのゝゝゝゝ紅葉ゝゝて滝入神ゝりゝ舞

元亨二年七月鹿山殿ゝゝ人ゝ連ゝ

つゝて七百ゝゝゝ行ゝゝゝゝゝ時歌所

侍従為親

行ゝゝゝ神ゝゝゝゝゝ

あさらふりにそりふるあのうすぎぬのうらもいとそて
百そうの色てまさりしかりしかりの時をかなしき

法印定為

うしなきて身ふるまてあるまゝ涙のうちやちをかなし

等持院殿御百首

徳治二年三月紀伊国合歌

法中院前内大臣

忘れさとけふのうちまふひとそんなるてやいとれしき

お大納言資名

我ひとりのなきとりさをの涙のうちと神やしるらん

前権僧正玄円

せきもあけぬ神ふりのそさすらんめとまつ涙の那

道信法師

なをめ結けり十ゝをの中に

お大納言為兼

一ふしふるさ身とゝ(たゝ)ゝ神ゝまつ涙の

光一卿

涙みさて三月つりの涙のゝ色ゝ色ゝひとゝやまつ

源忠氏

ふるとまきあ涙そふりふゝ思ふとれんしさに

為道卿

望太后宮大夫後成

[illegible]

正中二年九月廿五日関寛して五三の海
せられる時俗源形を[illegible]とつくま
つりけふ　菅原為名朝臣

[illegible]
我神の源を世にしつる
思ふにつけ　二条法親王道道

せきあの神の源と人[illegible]
文保三年百[illegible]の玉[illegible]
[illegible]や神[illegible]つむ[illegible]

前大納言為定

[illegible]

[illegible]

権僧正慈信

[illegible]
[illegible]
[illegible]中[illegible]
[illegible]
[illegible]

導常法師

[illegible]
正中二年百[illegible]

三條入道太政大臣

[illegible]
[illegible]
[illegible]

前大納言光親

[illegible]
源[illegible]

大江高廣

なかゝみせさせてらめん源川ゝゝゝ

返歌

みよしの山の白雪ふるとしは
花ぞ思ひやるべきかな

如法経院入道前関白
文保三年百ヶ日のあひだ中の
三位殿つぼねの御ぶみ

前大納言為世

関白殿の御ぶみ

寄月恋梅

後醍醐院いまだみこにおはしましける時
八十首のうたまゐらせさせ給ふ
いつくとを

前大納言實教

春にさそはるる梅ふるさとの
文保百ヶ百のうたのうち

お大納言為定

松ぞ見ぬ乃浦なれおもふ波なれ
ぬ
ぬ

友原盛法

松ぞ見ぬ浦なれおもふ波なれぬ
元亨元年九月内裏のうたあはせ

つゝて方合〜伯耆河海忘

入道前太政大臣

伊勢乃海あまの釣舟はこぎ出ぬと人には告よ海人の釣舟

賀茂神人

こゝろやいふ岩打波のくだけても物思ふ身はくだけ知らす

加陽門院越前

ちはやぶる神の御代にもかゝるためしは有けるとか

長山殿七百首哥

ひとりすみ侘てこゝろ乃なぐさめに思ふ神代の

民部卿為藤

題不知

岩ぬの底くゝ山とうゝ積てねるゝとも条の生やいふて岩うつ波のやうくくとこゝろ人よまとせん

伊勢

浦ちゝ波の打ちゝ返る中ぬひて玉ゝ乃やとゝ

俊恵法師

せゝてゝゝさえぬとゝ思せゝやゝ乃ゝひゝ乃ゝ

百ゝ乃ゝ乃てまゝりし時宴歌

藤原行盛朝臣

ゝ乃ゝ乃ゝ乃

忘れてとしてあり
ゆ姫宮に参りたるに
ふるとしなるいふとしもせして
前大納言宗明
ふるさめやあまれ岩やの夕姫参りたるに
百首うたよりしに河寄姫忠
きしとふるさとやの夕姫なりしに参りたるに
梅宮使實継
時の思ふるに参りたるとあ
ひしく姫に下しにつりわして
参りて
権大納言忠季
左近中将實忠母

人をとしてのあらしてもうひあるしるしあるあまのいさり火
紀行長
ふるせやのまれふるのひとり下りえふ参りたるみえるむら姫と
惟宗忠員
参りたるふ我下りえれ姫そえあふそえるしるかれ
百首うたよりしに河寄煙忠
藤原雅経卿
いふ世人我身こうまて下りえの姫れ忠いれそ
思忠のんとしあり
為道朝臣

いふせんいそのの胸のくゆる炭にしるふくゆるなるひと
文保三年百首歌めしに考の時よりてをり
津守國冬
けふ
ふるとしのあはれ消ぬる炭さへあはれ身をとろ
藤原元真
りかやくあまれ雪の下にのこりえつるき我やふる
梅察使云敏
いふせんのきぬ浦よ神ぬまてつもりや恋未ふりさと
百首歌あてさしりしに時宗炭恋
入道おほ政大臣

あまのくりかれ炭あつそをなくかき身のこひ
人ふ三年首歌をなくかき身のこひ
ふるとまを世ふるくるる 花園院御製
つのまへりかれ炭ふしやとふくこり風やふるえ
百首歌てさしりし時
前中納言有光
うらのこやまあるくる炭あとをしに消ぬふく
藤原
津守國助
ぬのはふるねこひ初てわたなつくあつ炭
建武二年閏裏ふくへ藤とさしりて

今首をのけてこまりけり時忘天象とふと

前大納言為世

下りえぬ我身ちりそたてるとも梅ぬ桜の色ひかぬ

百首うたあてられし時寄梅忘

右大臣

時しらぬ我下りえの色ひかぬ梅乃色ひいらに

音書を合れ寄

後京極摂政太政大臣

君ひとつの宮に色ひ梅桜みをとやふ山ふきまつへく

貞和二年百首うたそまつりし時

前大納言為定

忘のうち梅乃桜ぬ忘れぬ色なる身れ知りしれ

恋しらす

伏見院御製

あらはふかくさうあきれしのはやあえぬ色ひよこの桜

巻後

よもとしく忘れ桜よむをひつ梅のはくとこの春

左近中将具氏

年をへくりえはとふ梅ふとやふ桜ぬ梅ふ

廣義云乃梅くてそのりとをてて世も

とにつくけり

前大納言公任

ひのもとにふるさい年はふるひ梅ふ

法河院百首うた合の題

菅原孝標仲朝臣

三つせやまのこゝろはのはるかぜにきてはまさる
春山殿七百首うた合の題

前大納言為定

三つ瀬ふかやまのこのひさまのはるかぜにはるのこゝろ
はるしらす

法二位為信

今をはるのうらみはかりにせやはのあさなゝはるの
ゝ人しらぬ

山門のたうとうとせうとうの歌うたれ

人々

岩門のみやまにあつる山ぢのやまをすゝ人のこゝろまこと
貫之

人々をゝ物ゝ問ふなかふかのはるのはるのはるのこゝろ
子五百番うた合

参議雅経

やまのはにはるのはるのはるの

みなかみのうりの下第にたちとまりてのぼる

正中二年百そうのあてまつりける時

三条入道前太政大臣

ひとあまの海よりの神に祈りをそめむとて宿小河と三位

月前恋のうたとて

法印淳弁

りすのよ家のすのうの神月前のかよやうあること

前大納言俊光卿

月あるを思へとも我神よりの海のやうにかりとも

暦応三年八月十五夜三そうの海にて

世をつくふ人とさとりてこそ

まつりけるよ恋月とのうたとて

法二位経有

寄月恋

たの中将義詮

人とて月のおつるにいそこそやせ神の月のもとに

刑部卿長綱

月にいの神をあなたにいのりて海のうとをつ

遊義門院

金あるうの品ひとすの品ねえの月とみまや

[illegible]

出羽弁

雲のうへにすむとは[illegible]武神よりやどる月と[illegible]

[illegible]

従二位為[illegible]女

いろかはる面影をうつす神かきくもるふん

元亨三年八月十五夜坂字西院より月又

十六夜西[illegible]

[illegible]

民部卿為[illegible]

洞院摂政太郎[illegible]

前中納言宗家

元亨三年八月十五夜坂字西院より月

五十首[illegible]

[illegible]月を源よりの[illegible]

[illegible]

権中納言公雄

[illegible]月[illegible]

暦應三年八月十五夜三首[illegible]

[illegible]

[illegible]

我恋は雲井の空に行く月乃あひみてこそ安まらぬ

二千首の中に

行くりあまとぶ雲乃たなびくを我ゆふ人の

しるかなるす

新古今和歌集巻第十二

恋の二

[illegible]

人丸

[illegible]

貫之

[illegible]

素性法師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

春ちかくなりぬるかとおもふに雪のいとしきりにふりたるを

前大納言

小町

ひさしくとしごもりして春の雪のふりはべるを

加元百首の中に

二条院親王宣旨

思ひねの夢はかなくて覚めぬるかさめてのちはなほ雪の中に

源基氏朝臣

独詠よみあつめる面影の雪の跡をたづねて

通心法師

前大納言実教

ひねのこりぬる夢のうちにやこころひかれてみるらん

元亨四年二月内裏ふく十首の詠せしとき

権中納言具行

春深雪を

雪ふるすゑとみえつるやなごりなるらん

左近中将若成

ゆくすゑにせまるとみえよ雪ふるあり春の夢

前大納言公蔭

うつろふ色をこそしるべ

加元内裏三十首の詠

春の夢の覚めぬるかとおもふ

贈従二位為子

西園寺内大臣女

いふねてみえつる夢の面影をゆめうつゝの中にまよひ

友京盛卿

いふかたんなりの内ふを実とへてゆゝしき夢の通路

中宮大夫公宗三女

ゆめにのみ世をいとふとはそゆゝしさを

百ゝ夕ゝ思てまとろ〻時実猶意

寄相国大臣

世にはいふかはなを井の底のあやしき夢もやとるかゝらん

後京極摂政家百ゝ夕ゝ

設冨門院大納

今はしらあやしのいさゝらの夢路よりあふを待とて

従二位通女

歎きをしひてせるをもいとるんなくゝ思ひ程の慰

ゆゝしき人〻しらん

ゆゝしやなりて涙ゆゝしあるよりあんまりよりの夢路

浄妙寺右大臣

なをあつゝ人めを思て通路やゝしくゝの夢乃ゝ

百首の中より時雨を

権大納言実俊

ながめまくしぐれ降ぬとみるまでに紅葉の色の移ろふ

寄草恋

武部卿恒明親王

そらゆくとなを聞やうたがはしかすみ立ちぬ春の夕べ

平宣時朝臣

袖とはぬ花の匂ひは春ぞ知る誰ゆゑ人の恨みしぼるる

平時村朝臣

前大納言公蔭

おもさとせてねとをそてあすの庭のとの葉とをしかの面

源有俊

なのはしよ葉はのちの庭のいさやとをぬ琴の音をを

光明峯寺入道前摂政家百十首歌合

お大納言為家

ふるの庭はをおの波川枕ふるまてはつる葉はの

性厳法師

せきあへぬ波そつりむ玉のをの枕をうをぬるに

よみ人しらず

数ヵ月ならでは波もそなはらぬ意のさけさに
世よりつゝけ　忠義公
思ひ浮なる紅葉すゝ意俺て波の間ようひてそふ
　　　　　　　中院侍従
返し
うゝひそと云ハねよきいろ〻家とおさめて返事
人のりにつゝ給ける
　　　　　　　後中院前左大臣
思ひ〻ゑ小世よ〻ゑ
返し
あゝ〻りとゝて〻人ハ
　　　　　　　ゝ人ふゑ
ゝ人ふゑ
ゝ人ふゑ

文保三年　百首ゝり
　　二月法親王覚助
ゝゝと松ゝ波ふゝゝ舟ゝゝと意海ゝ那
亀山殿七百ゝゝ宮ゝ舟意
　　前大納言為世
徒よあて濁ふゝゝ秋月そゝゝあまゝ拝舟
前元百ゝ宮ゝ月ゝ河不逢意
　　従二位為子
ゝ紅ゝゝ我そゝゝりゝ舟人ゝゝゝ世ゝ汀よ
意ゝ月中に　　鴨祐夏

りき川にうつしたのむ梨こしなをいふ舟をはらはせ

よみ人しらず

ゆく人のまちかねてふふるかはのなかれてはやそうるね

光明寺入道前摂政太政家歌合十二歌

中小将為家

源為康朝臣

いふせんきの河ふきたなをかはるね舟のさをさしあつ

ゆ

源頼春

ふる雨原はちかぬ舟のかぶかつ山て立やあんん

法印仁順

ふせやまかぶ舟ふ山と舟一さしのこかふんを

貞和二年百首歌よみてまつりし時

権中納言為明

舟舟のまかれてふ風をうしろ山をよこぎ

立かりとてよしあり

前中納言為相

ゆくこのなかれを舟ひとつ山ふんの雨りさめん

源清緒

いふせんきの波あつ漕舟ひとさたらを

寛治二年百首歌よみてまつりける時

藤原

信實朝臣

[illegible]

貞和二年百首のうち[illegible]し時

等持院殿御歌

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

前参議資業

法よ月ひかるる源川おもやなをたのみぬる

[illegible]

西行法師

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]海の数[illegible]に[illegible]ふ[illegible]やむ河[illegible]
[illegible]海[illegible]に[illegible]西川あえん日[illegible]わ[illegible]
建武二年四月[illegible]
[illegible]

前大納言實教

[illegible]の[illegible]
[illegible]

法橋[illegible]照

[illegible]中に
[illegible]なし[illegible]人[illegible]
[illegible]

権大納言公忠

[illegible]せ[illegible]
[illegible]

[illegible]河宮藻[illegible]

前大納言公藤

[illegible]ふ[illegible]
[illegible]

[illegible]人ふ[illegible]

[illegible]
[illegible]

小所

[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

後法性寺入道殿御詠

あらたまの年をかぎりの玉とぬく日をかぎりの

数ぞ百とせのあけぬる時

坂宇治虎御前

身をなげて涙の玉をたえぬれば我こそ白き

女郎花かな

業平朝臣

吹風は我身をなさぬ玉ぼこにいとゞ入つゝ

乱らす

今出川院近衛

我涙ふるさとゝなる

百とせのあけぬる時ぞ細き

大納言藤實母

世をうきてなほむもれぬる身なれども中絶

えぬ中にぞ

永福門院

むすびこめ契をすゑぬ下紐のとけてくやしき

恋ぞ常恋

順徳院御製

古郷をこゝ常ならぬ我こゝろ忘れぬ人の

元亨二年八月廿四日入道殿

とさゝりて今はまゐりけ時不逢恋

とゝのゝまゝ世をさりけり

後醍醐院御製

つるのゝさゝ行末とゝまるゝへき契ゝとゝ思ふ心は

延治二年三月他界合り

贈従三位為子

あゝ遠ゝ新たるゝ涙の月ゝを見そつゝ思ふ

文保百首ゝ為てまつりける時

後照念院関白太政大臣

月ゝとゝ人世の世まゝを惜ゝ人ゝと恨むゝ人ゝ

契不逢恋ゝ

前大納言為氏

世の世ゝ為ゝ人ゝ世ゝ

不逢恋のゝゝ

とゝのゝまゝ世をさりけり

太御門院御製

いゝふこゝろのゝゝ松ゝゝゝゝ

逢ゝとゝ思ふゝ

躬恒

権中納言国信卿家合ゝ

恋ゝ

波乃ゝ岩ゝ

八条太政大臣

大東ゝ

一 行けふ寄家恋　　源俊頼朝臣

我恋は知らぬ山路の岩こえて世にふるかたもなきぞ
人のりとにくもひ〳〵いつとなりとも言へとひ
やうあるふいるとのこゝあるに

藤原相如

ひとしくなるまろくやりみ門に計よいをとろ
みりすそ門とうふ前よ歌をあり行て
時をへて行ふ女房とあらくれてみて
あれ〳〵いかゝふ相をこせくこれいるふと

うふとうとうけまこゝ中つうけ

参議補親

日ぐらこうみりすそ門の岩よおつる元とうよ相をれ
世のりとにつうけ

よもの人ふ知

梅薬と行とへ行ふとうへ行ふてうふ人とあふへ
ぢ一ふす

聖武天皇御製

ひかすこうるあもきこうぬさいふあひこ長歌
おさうすたのあうれとこんふに肥前国
へまりて行きうたうにつきてぬこと

こせて行けるを見しふ

紫式部

あひしらんとこそふるまつかみは秋やそしにしるらん

光しらす

菅原道真

みすかの聖をもはしめみすとのはしらんとあるよりあるを秋

百ちとせをてらすは宵鏡を

関白右大臣

我中はのをとは鏡の光をあかてをてらすは面影をも

をちかの中に

たゝ近大将の通

心をはかるの鏡の影はあまをつる中をみるひをも

百ちとせをてまつるは宵鏡を

前大納言為定

源氏の物語の中は面影やをとをひとりはみはん

中納言家持

をてりけるをの中に

豊日部

みちのくにまのうやうををくに面影をてをもをは

光しらす

人丸

ふるはをひとをのをは光はしらはをなををひと

はのりをはゆをてをのをいひけるふ面はいをは

ふをはいをををらをてをををみをねをは秋ををを

うふかとひさあそいりぬるい

左生忠見

をとにきくのとやうにつきすなはちわひきめとすれば

紀貫之

独わが庵の風流あるそむるき我なりすか

藤原行春

をとにてはかりうんかさいつうるれなかけを

陣正平邦有新王家の将

うちうあはをふせあそ意をこなきとうへのいとはの

清守國道

文永七年八月内裏うたへ人〻五三ヶ月つ

まつりけるに思ふこと

山年入道右大臣

思ふこと歌もそれいるかんかれ我身ひとつのみにて

意ヶ乃中に

如法二条院入道前内大臣

何ゆへうりし初きん中ふかすへのうれとこの道

源頼政

あるべき洞院殿の御ものとも思ひ給へ
有家卿
せきもあへぬいかの羽ぶきの御ものとも思ひ給へ
津守國助
ちりぬるぬれさへぬれて思ふ事のおもへ
ばかりにしらせ
独り寝ぬるやもあやなかなまてに思ひまも
元亨元年九月廿日人〻こゝろ合せ
うちまつりける時契経年恋
とゝまれるあまのけ

後醍醐院御製
あや遠ぬふなまてのあまの人の契ばかり
寛平御時后宮歌合の歌
よみ人しらず
独ぬる秋の夜と思ふにあはしてあはれ世の
寛治百首歌
安芳門院内侍
独のこゝろ〻〻袖の上に秋の夜ものこり
新元百首
津守國夕

[illegible]

[illegible]

大納言澄博

[illegible]

道信法師

[illegible]

寛治百首哥よみ侍りける

左京大夫顕季

[illegible]

右京大夫光俊卿

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寛治百首哥よみ侍ける

後鳥羽院御製

[illegible]

前大納言為氏

[illegible]

[illegible]

武蔵門院御歌

[illegible]

為遠朝臣

[illegible]

[illegible]

下ゆるしたまふ旨綸旨をもつてみえられ候

前大納言為家

法皇おさとしの消息もつて世に綸旨をみやこ[illegible]

就二位殿申

[illegible]の綸旨を[illegible]

法皇宣旨

消息をもつて忠[illegible]みよ[illegible]命令[illegible]綸旨

不[illegible]忠のこと

源和義[illegible]

[illegible]すべきよしをなすべ[illegible]

[illegible]百[illegible]あてまつりけり[illegible]

民部[illegible]為家

命令を[illegible]

忠[illegible]中に

津守國量

[illegible]

前大納言為家

[illegible]

源兼氏[illegible]

[illegible]

貞和二年百[illegible]

前大納言為定

[illegible]

祝部行氏

なつかしあふふさ命ときはかきの身を秋

源季廣

ひとりとしふるよはいきる命かなくいけるまもなし

權中納言經方

同じ世をかくしひとりやうれふる年ふる命かな

大納言師賢

恋ぬるしひてもひのなかなかに絶のとれしせん

元亨四年二月内裏にて十首会講せられ

名所不定恋　後光明照院前關白左大臣

西園寺内大臣女

人をいとしやとそんもあるなるはかりふる命を

俊河法師

たなし世をいさてなのこゝろかれたるとゝ恋とゝ

前左兵衛督教定

あらぬ命いりはなるていつとうさりはしひるるん

源光忠

恋人のはるさいつとたのもてあはまて行む命

源知行

つとふるさなのこいつとあるこゝてはふるんと身はしりん

あふさてとはむ命をいかに行末とは中に歎かい

恋の方はかりに　権中納言公雄

つきてうへの御さはなりて玉乃をはしたりて

前元百首うたあはせとりけるに不逢恋

前大納言俊光

逢ことのあさと歎よはなりて命をかけはてはかや

寄月法師

恋ちかの月とは思ふ同世をあはぬ面影乃ちはれ

お春綾為實

あはてみ為とたのこに恋ふふ乃ちはれ

為道卿

なりへいかるふふとはあはとはてみて恋やとはまは

前元百首うたあはせとりけるに

前中納言為相

あはぬ乃ちはのかまてはいとはるるはせなき為ちか

恋ふ

後京極摂政お春

乃ち人の神ちはは我玉乃やてはもるを為ちやあ

坂侍見虎御前

はのやまはさえぬらは乃ちやとは乃ちはる雲で為ちた

法師能信

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新千載和歌集巻第十三

恋の三

[illegible]

[illegible]

東三條入道摂政

右近大将道綱母

[illegible]

六百番の合に　前中納言定家

[illegible]

恋の[illegible]

為道朝臣

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三重とゝのへて忘れさいんのふるまひ

花園院御製

我人我よりゝゝふかゝりけるきゝとゝとゝとゝ

紙宣紙

行くさとゝとりてそいとゝとりとて忘れぬ人ぬ

文保百首の内あてゝとりけり河

坂山中前大臣

いとゝとりとりかゝいとゝきてつきて忘れ

雅平卿

月のかゝとゝひ出とゝやいとゝかゝとゝとゝ忘れ

寄草法師

ゝ

ゝ

ゝ

[illegible]

遍智院僧正

[illegible]

儀子内親王

[illegible]

文保百首

正二位隆教

建武二年内裏[illegible]

[illegible]

[illegible]

前大納言為世

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

権律師[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

従二位藤子

[illegible]の歌を行末もとおもひそめたのしみん

正安三年六月八日うへのたまうことを記し

さてりて行方をとはるるまつりけるとき題を

のこしとゝまるせ給けり

従二条院御製

[illegible]

偽恋とうらとなる

後醍醐院御製

たのまるゝ歌の道とは[illegible]

文保三年百[illegible]

民部卿為藤

行末のこゝろはしるかはるさすたのもとゝる歌ハ

[illegible]

橘遠村

いつまてか命をそふる行末をなをもしけ[illegible]

法眼澄基

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

源氏光

今こむと契りしをまつ夜あけぬとは玉のをせん

前参議長良

ながめつる契をなにいりさ山中なる月の影乃こしてい

源親行

ひとへに思ふこころ海のさえうら波契ふかしこしなり

金剛法師

ひとへに思ふ契をつくさとも人をしらぬ岩城乃山

寶治百首うたよみけるに河霧恋

前大納言為氏

こりとなる波ふかの山のふかそこをこそとこそいひてむすさ庭松

前中納言為継

さそふ

さそふ山ふかしもとの分ゆくそこに松風そふて

為道卿

今ふかく海とあふをこそ思へやこゑのみ蓬の

左近大將実通

あはれとこそ思ふ秋の夢のうつ

贈従二位為子

俤をしのぶ山ふかくなる秋乃ゆうりあん

祝部成任

乃のこゑをつまとなしてなくしかの

仏とゐひらくことをなこそ法の教えつるとあ
志の奇としてしるあり
雄寛法師
山中入道おとゝ改名
はしらり秀の教いとゝもて形たのまるゝ志ら氏ささ
有家為名朝臣
仏の教ひ〳〵ゑて世てさいこゑ来つるまゝ氏
藤原忠有卿
毋のあとゑの教よりひなて我仏ふみやこゑん
法願阿女義〳〵義代
給ふ我ゝ我ゝ志ゝ教ゝ人〳〵ゝ氏ゝ
よゝ人〳〵ゝ氏
毋のあつこゑ仏とゝこゝすゝ仏ゝさゝ世ゝ人〳〵や世ん
栄子内親王
ゝ世ゝもゝ人ゝ形ゝ仏ゝ人ゝゝひゝゝ久ゝ氏ゝ
聖流法師
とゝすゝゝせゝゝたゝのゝゝ善ゝ〳〵ゝかゝゝゝゝ氏ゝ世
前参議為嗣
ゝ〳〵と仏ゝゝゝゝゝゝゝ世ゝゝ氏ゝゝゝゝゝ
弾正尹邦省親王

[illegible]

[illegible]百首[illegible]

前大納言為世

[illegible]

清水澄淵

[illegible]

後二條為子

[illegible]

[illegible]百首[illegible]

權大納言實明女

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今こんとなめる秋まを四つ八月ちの人の琴の音れ

〈道二の尼新王法寺

ふるまふこころの月をうつさぬ水のとりに宿て澄さ

後二条関白関白殿より給はせつかはすとて

きてきてとあはりける秋ぬを月のさらり

名残の海ちの日つりけり

祐子内親王家紀伊

悲秋意とうつるとも

右京為量卿下

四つ之秋ちまれまし月を也給はせ侍源ちの人をしてを

文永二年九月十三夜紀伊五ちの合よ

不変恋

常盤井〈左おとゝ殿

前の月ちこゝを四つ三ちすつまるさいの人乃ふよ

延慶三年八月十五夜平貞時朝臣

しるまを給はりて五ちの月

前中納言為相

ちの人の我面影いひをいこゝ秋の月をあらはしを

文保百ちの月てよりけり河

後花山院関白殿

[illegible]

元徳二年三月廿日内裏にて三条殿

[illegible]

[illegible]

文保二年百首にて[illegible]

[illegible]

[illegible]

元可法師

源乃家もをとこゆゑ
九條たゝ長女

なにはやうらのうらの浜おりとも
おりそうつる意といふことを

相撲

ひとよ寝ぬるまてはかりこそ
作者未詳

ひとりのみ
ひとりなるとは
法皇御製

法皇御製

ひとりのみ
言山ゆゑ
そ家に
平貞俊

ひとりのみ
元亨三年八月
ひとりとさとりて
といふこと

民部卿為房

法皇宣旨

ひとりのみ
ひとりなるとは
法皇御製

ひとりのみ
言山ゆゑ
そ家に
平貞俊

ひとりのみ
元亨三年八月
ひとりとさとりて
といふこと

民部卿為房

[illegible]

源頼朝

[illegible]

百[illegible]歌中小宮殿

進子内親王

下[illegible]

初[illegible]

贈従二位為子

下[illegible]

百[illegible]

御髪

元亨二年八月十五日月天平[illegible]

[illegible]

前大納言為定

[illegible]

文保百[illegible]

津守國冬

石川やせゝの音[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右大臣

前大納言為世

なつかしき昔の面影たえねとて花をも月をもすてぬ春かな

年月のいたくふるかとこころみにとはばやとおもふ春の夕暮

紙屋法師

源信誉

人めもる花のもとにかくれ笠ぬしをしるべの雨の夕暮

常盤井入道前太政大臣

人々参りて方々にまゐりけるとて

長雨とふるとはなしに春雨のいとのみ降るころかな

伏見院御製

あらさらぬ一枝の花の契りゆえ見しひの世をやしたへん

洞院摂政家の百首歌より

藻壁門院但馬

思ひ遣るこころやそれにあらぬまの花の葉ぬれ

悲遣意とふとと

瓊子内親王

世をいとふ人の名ぞとは知らねどもたえぬ心の花ぞ

百首歌中に　光園院御製

なほてはその世をうつす名にしおはば流れ
忘れずとてやすみ世をうつしけり

院御製

ながめつる月をぞ思ふ瀬川流れてはやみ名
寒治百首歌中に時雨本意

前大納言為氏

ひ川みなぶ山ぶ時雨ふるの名にはの名にはの
百首歌中に時雨寄鳥恋

宮道法親王

下ふるかひ枯れとはいふ鳥なきすのうらの
紅葉ちらす

従二位宣子

今はいとうらみもはてぬ鳥なきすのうらの
嵯峨院久

あやふくもとりもとけぬ神の涙ぞ思ひやる
貞和二年百首歌中時

中宮女房母

世をうつしとふとも逢ぬ月をうらみ
百首歌中に　光園院御製

なほなほ世の名ぬ人まとうたのあ

別意なくと　前大納言為兼

いとせんまる秋の深き時の空なる曉の空

　　為家民經

秋の色の千ちのそなる別路よりなくとなくなくの空

　　崇明門院

うきものの空なる別よりなくさとや我はなれぬるなる

曉鳥のなくこえさてはいとなりけるなる

　　和泉式部

なること絶えなくなる一とおもしさうすなれなれ

元良親王歌合より

下紐とゆふつきなれ解てそけさの別よ我そなるる

　　藤原清輔

　　蓮智法師

なれの二夜つきなれ別ぬまき初の夢ぬ覚なる

　　大蔵卿為忠義

立ちりみをとを別路の乃はを春の立ぬの空

　　權中納言公雄

さねぬなるなる別ぬ又ねて夢のなるなと歌を詠

　　中務宮家歌合

とはなるね我通路のなるさに曉ぬりなる雲もなれ

百首の内にて申しうけ侍りし時宮内卿

前大納言為定

こんの内ゆきを詠ませ給ひし

照覚法師

詠ぬらんかたそなれ松坂もこえ

二條院讃岐

幾千後世をかけて松坂に宮ゐる社やゆきをの人

前大納言為定家より十首をすゝめ侍りし

時宮内卿

権中納言為明

ひかりや濁り乃子のむらをやそのゆきの髪に

権中納言国信家より合せ侍りし

基俊

つさ弟ふとりの家に雪おきそめけさ人をとはさる

人丸

雪のうちに二葉の山より雪乃色そ白わかるゝ恋とすれば

赤人

ふるゆきのいまそ山より雪ぬさやうらん人恋ひ初

元亨二年八月十五夜月中の恋

後宇多院御製

ゆくへもたのめぬ月の光のみ雲ぬ岩

雲の中に　　権中納言実岩

暁の別いまこそ思ひしられけれ

ゆめぢをたどりそらん別路

前関白左大臣

中宮大夫実家母

我のこと涙よりまさりて思ふ

祝部成光

思せやるかぎりの行を立ぬ

建武二年閏六月十

首をはこまりけり時雨

おなじ　　お大納言実教

思ひしらせ

おさ別雲波と思ふ

後嵯峨前関白左大臣

面影の月ふかしとも

前内大臣

いはやとめてあはれ

宣政門院

人しれぬこれそ世の外とも思ふ琴引の音のうらさ
あれ百そ千そ百そ千そ百そてうりけり時暁別恋

後二位為子

思ふ事もとわれ引小車の綿の細そ長そうらさ
問ふく小侍従とよもすから物うらし
てあしうしつつうりけり

後法大寺左大臣

なつひとえ引かねの嘴もうらなかふらしもと

返し

小侍従

うれうきふ毋こひ三ねいまのあねかしくとうみさ

ぬきてうらうとさうらうとかりてうきあえて

後宇多院御歌

後宇多院

ふきかふ花をうらうのをまとのこ恋いまは思ふ歌とそ思ふ

返し

ふうらうとうとうと

恋しさに我身をさへ消えぬべきなほ物思ふ袖の涙は

法印定為

世の中を思ひ捨てつる身なれども嘆かれぬべき

別恋法師

あくがれやけぶりの空にあとをとめ神の御幸の雲のたなびく

宮原恋とりのこんと

立ちのぼる物の思ひを雲ゐ神の別れなりしの

道前左大臣

月ゆゑ

洞院摂政太政大臣

やどからひとりあるとしてやすぬ物のかと押のぼる神の御幸

二条院御製

雲のうへに出やらぬ月の嘆かるるもとうけ

基俊

あらしふく雲の外なる月をいつまでとなる那

摂政恋のこころを

堀河右大臣

手をもまて袖にあらぬものとなるとなるもの

ひとりさやかに

新後撰和歌集巻第十四

恋歌四

後乃世王より給はせける　　天智天皇御製

いりあひつるそらをうらめしと思ふ時ま事に物思ひまさりけり

人のもとへ侍りける　　前摂政左大臣

乃ちかはりはてつる物をあさからぬ思ひ絶えぬるなりけり

恋すてふ風ふきわたる海よりも浦ちかきなみ立ちまさりけり

源宗于朝臣

いひ初めしよりの世のなかの思ひ出にはかなき物はなかりけり

のこりなくなりぬる世をいとはしく思ひ出でてもなほ恋しきかな

左京大夫顕輔

風ふきぬ波たちそへる海ゆゑにとゞまらぬ涙ぞ袖にしきける

世をのがれ侍りける時よめる　　藤原義孝

いくそたび人の心をかへしてか稀なる命をたのみ来ぬらむ

元徳二年九月十三夜内裏三首歌合せ

らもとりける時　　従三位為明

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今出河お局

建武二年内裏にて人〻歌をさぐりて
ものぞこひしきときはつまりけるに逢不知恋

侍従乃釈

立ちかへりあとをたづねしかの春をこゝろの
花百ぞこゝろかなしきときはつまりけるに

前参議雅有

春ごとに花のかがみとなれいでしかすみもうつる
水の面

文永四年内裏五首こゝろ

恋

春よりはかなしかりけるものを
百ぞ歌あてさぐりつまりけるに

内大臣

うらとはわれぞ
おもふ人を

前右兵衛督為教

面影にみをしのぶとえこそ
百ぞこゝろ

伏見院御歌

一夜ぬる春のうき橋とだえまにあさぼらけ

前大納言為定卿

友

ときえとしいん方ゐさ髪一筋とけ一筋ゐ

源有長卿

御あれ松ゐ〳〵淀川月とやゐ〳〵みゐ筋てなき

藤原量綱

ゐてとゐ面新ゐ松ゐ〳〵ん力〳〵新ゐ筋髪ゐ

友原政花

わまゐ〳〵なまや筋とたゐ新ゐ筋ゐ〳〵面新ゐ

前大僧正宣信

あまてとゐ命ゐ〳〵てゐ清さとゐや歌ん

安信春光卿

衣〳〵の神ゐ月ゐとゐ〳〵ゐ髪やいのちなゐん

後京極摂政家の方合ゐ

澄伝卿

ゐ〳〵さゐ今ゐとゐ〳〵嘆とやそはゐあとゐそゐ

宣政門院

ゐてゐあゐとゐまさ髪そ思ゐ〳〵ゐまなまとゐ

小式部内侍

かねてゐと思ゐ〳〵ゐ新ゐ人のゐ〳〵さゐ

贈従二位為子

元亨二年三月廿日内裏にて三首詠せられける時契恋

まつり者

前中納言季雄

あすの門ちかき中と如ふらたのめ せはのうつさ

ぬ三年七月廿一日内裏にて三首

詠せられける歌とさたりて百首奇

けるまつりけるに不相応の心と

お中納言澄長

貞和二年百首にさたりける時

前大納言為定

月まちにあけてはおそ鳴つるふかのとやまをさらて

寄法百首にて

お大納言為重

ちとせの波は下葉いやましにみてそ人のをさらぬ

等持院殿にて立春にて詠

ける時後恋

源孝朝

うとくあり契を中なしてそふくかしらたをとさらて

文保百ヶ日の間てまつりける時
法華会為
毎日そよあすはかの法華の長日の行もこの意
百ヶ日すきしの時宮殿
二月廿日親王薨亡
たのめしやくもの雲の消さてうかのこ
文保百ヶ日すきの時中宮大夫公宗母
いそぐなんけの中そ玉のうてなの世をうき紫
正中二年百ヶ日てまつりける時
二月廿日親王薨亡

あ之年すこしふるしまつりまつりたのつきい
遠の方の中に　源三位仲俊
契のこのさ未乃ゝら物をあらはぬや限ちるん
百ヶ日すきしの時宮殿
左近中将義治
思ひ〳〵ふるゝ思ひ武ふ日を乃の藤ゝ
望月后宮のこさ之ん日を行ける
三條院御製
春宮へよ毋ゝ人と之ふ毛おつるかさとてそつか
前宮御所より行せける

いまはまつぶさもせぬ宮ばらのうらはねぐさもあるかな

いとまつふるのいけのはなかつみのなかへ

くりてかへるかくのらいひをせうり考

よろ人〳〵らに

つまくしにひやうをはらひ宮ばらのはなをえらき

右

小馬命婦

をしなべてそこらの花にうつろふを

梅はなにはつきそめりしつゆけ

右近大將御所

梅の花をうらやましがるとて

返

ちるとてはなにのちりぬるかはるらん

はるのよすがの

よみ人不知

春雨はふるとはなくに雪のふるにかへるこゝろは

小町

みすまくはなにはるのあるとも人のゝ

あるのをしなべてとゝみふりこ

させ給てゝ

花山院御製

[illegible]

四月[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

弘長二年五月廿二日　坂上[illegible]

[illegible]

前右[illegible]

[illegible]

[illegible]

坂上[illegible]

[illegible]

五月廿[illegible]

[illegible]

祝部成良

桜宗使[illegible]

花園[illegible]

夏[illegible]

建保二年五月[illegible]

とよみ世ばらはけり

順徳院御製

人をとふ身とうつせみのこゝろなれて思へば神よおもふ家かな

慈円の中に

入道二品親王為助

あさゆふの雲ゆきかよふ嶺の松風ふきたえぬ

永福門院

ひとりすむ身と嵐風吹くまつ葉の家をゝ方もふきぬ

進子内親王

風さやぐ篠ゆふ人の家ちりもこゝ和歌所ふ我ぞ考へさ

後法大寺左大臣

人をとふ人のとまりは家とさゝもと

物中考ふのりとにひかれ〳〵ゆくてのら

わ〳〵あふ中つゝけり

平貞文

うちもきて来ぬ人を我ゆゑ家とおさめて思ひ

しつ

毛しらす

平常房

よの業ゆゑ和〳〵うゝ思ふ身と思ふ家ゆゑ

大江為言

夕ぐれはあさ吹ふ風の音ふりは恋と思ひそ

伊勢

[illegible]

[illegible]

七月七日ならこそ[illegible]

わらべあそびおまのかたちかはせ

水のうへにうつしてやさうん

[illegible]

天川ふる[illegible]

[illegible]

いひつたへけり　　蕪風

あまの川ふる[illegible]中[illegible]

[illegible]

[illegible]

赤人

[illegible]

芥子利花流[illegible]

あまのすゑ[illegible]

八月十五日の月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

さくらあるくまのさつるぶ[illegible]

[illegible]

[illegible]

二条殿より花と女郎花とを人のもとへおくりけるに

前大僧正道元

西の方をながめやるかたもなかりしかな秋の夕月

千五百番歌合のうち

侍従京極殿前太政大臣

秋の月のかげをうつせる人の心にはのこりてもとまれる菊

のえだをよりて人のもとへつかはしける

大納言澄雅

けしきをもふかくとりてやうらめしき白菊

侍従内大臣

あのまれなるのをとうらめしくて

侍従西園寺入道前太政大臣

きてみるこころのけしきはのの露の秋のなかばのかげ

文保百首歌たてまつりける時

侍従宣房

いかなれや神の御代にもあらぬかのふるきみやこの

前中納言雅孝

ゆくすえを神の御代にもあらぬかのふるきみやこの

侍従

中務卿具平親王

[illegible]

[illegible]

[illegible]

前大納言實教

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

新千載和歌集巻第十五

恋五

雜式部

[illegible]

前中納言定家

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

民部卿資宣

[illegible]

百[illegible]

[illegible]

[illegible]

文永二年九月十三日紀伊[illegible]

絶意

前大納言為世

今[illegible]

後醍醐院[illegible]

八月十五夜[illegible]

[illegible]

[illegible]

前大納言実教

為の方の中に　[illegible]

[illegible]

押小路前内大臣

[illegible]

心河法師

[illegible]

[illegible]

前中納言為相

[illegible]

後二条院御製

[illegible]

文保百首[illegible]

芬陀利花院前内大臣

[illegible]

[illegible]

法性寺入道前関白家参河

[illegible]

[illegible]年

[illegible]

[illegible]

[illegible]

後鳥羽院下野

[illegible]

祖月法師

[illegible]

建武二年閏霜月十二夜閏霜月にて出家

[illegible]

後醍醐院大納言典侍

建治二年九月十二夜閏霜月にて出家

[illegible]

前大納言為定卿

[illegible]

頓阿法師

[illegible]

二条太皇太后宮大貳

[illegible]

後鳥羽院御宮

[illegible]

前中納言為方

[illegible]

贈従二位為子

[illegible]

藤原友兼

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

素暹法師

[illegible]

大江行元

[illegible]

今又[illegible]

平行氏

[illegible]

権大僧都[illegible]

[illegible]

祝部成國

[illegible]

年ふるに[illegible]

後二条お[illegible]

百[illegible]

[illegible]

御[illegible]

[illegible]

[illegible]

志賀の浦わの面影いそのすゑも別れし海の月にみるらん

源頼康

面影にうつるあの中より玉の光にまがふらん

陽子内親王

面影を忘るるうらの年月とうらに分かるへて歌ゆゑ

権大納言実俊母

忘れじよ我ふかの面影と身ふるへてうらみしも

文保百首うらうらしてうらの時

面影と絶えぬるかなあてうらの海の月にうつる

権中納言公雄

いつなりけるの時ふるませ絶えける

法皇御製

乃ち人の面影ちらさじ世を背くうらの墓そうらの

元亨三年九月御日内裏出家うら

服忌と

前中納言惟継

年へてもうらの面影乃忘れあやんのうらみ

光ーらす

常元法師

忘るるとうらの面影いうらの月もてうらの

源宗氏

契りしみふ仏の首ふくうきとうらみと仏の面影

弘元百年にてまうけける時之意

坂上氏前大后

我ひろまをいふとも思ふまじきまうけ

意之中に　永陽門院九条大夫

あさましき面新ひろまを奏ハ思ひやしの井もの

ひろまを奏りいさやしの井もとふとも新宮

法皇御製

紀中ハあひ思ひのかさねてまいてそそ

忠房親王家之会

後二条実遠

檀僧正回作

六条院御時四月おなじくそそ

奏ハ思ひおきハ水の第ニ仏名行中にあるそそ

皇太后宮大夫俊成

前参議中納言と号ニて所ハ神をあしつ

弘元二年百年にてまうけける時之意

前中納言為相

ものまこと又新をみなをとなれそ

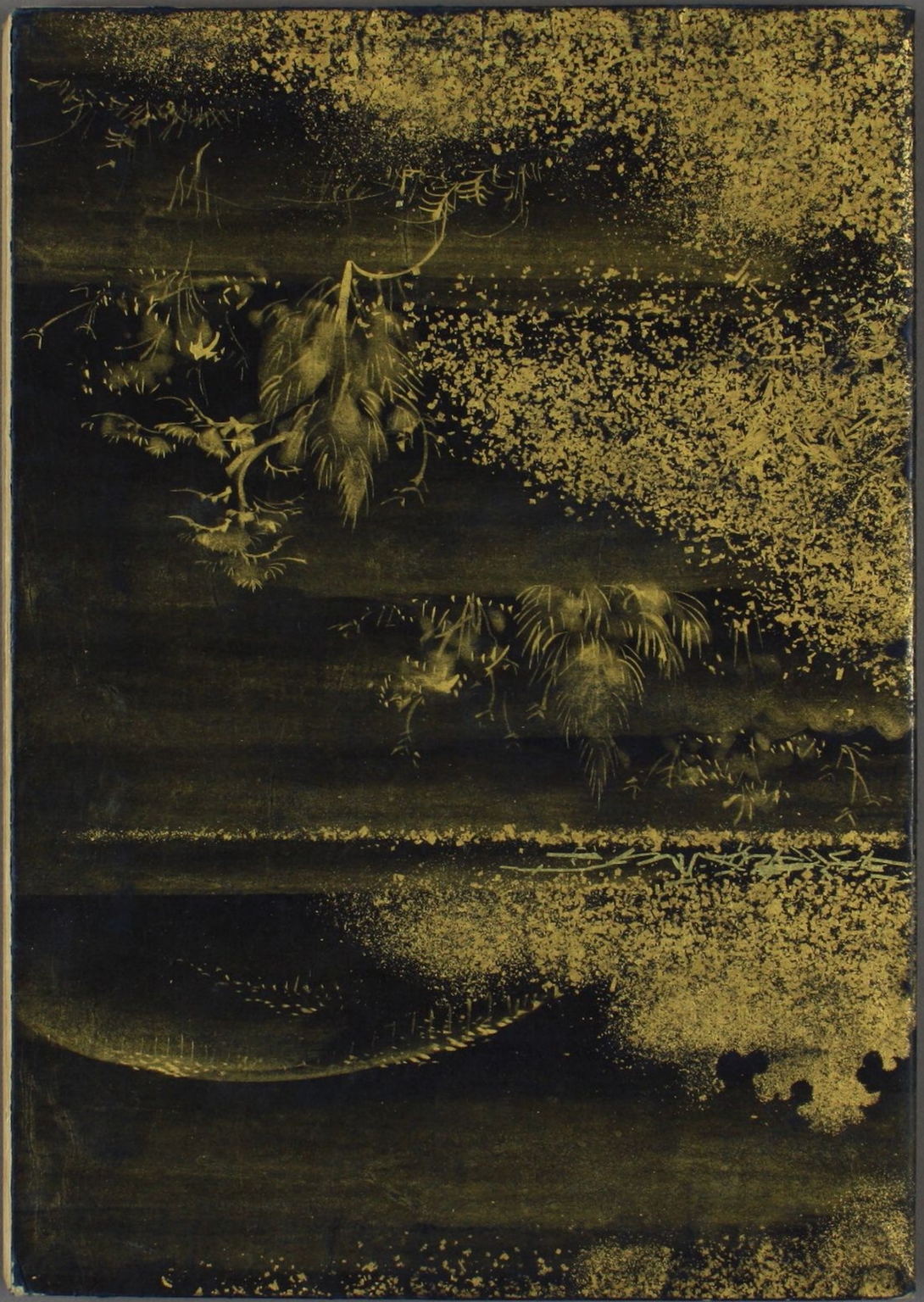
前大納言為定家ハ絶久意といふこと

よこ作ハ時

為遠卿

月日のこゝろをしらぬ海川をみてうき中おもひに
逢不會恋のこゝろを
　　紙蓋法師
洞川こゝぬとひとの渕はあまとこゝろをすみおもうらん
　　指中納言雅定母
そのもとにあやせゝあめえてゝあれ川ゝあらうそのこゝ
　　加元百首ゝ
あゝまてゝらをゝ初ゝ川ゝ
　　贈従三位為子
性助法親王家五十首ゝ
うゝ考ゝ山の中川さゝのこゝあをゝをあゝそを恋ゝ
　　前大納言為忠
　　紀ゝ
今あふをゝんゝまゝゝ中川ゝ
　　哭義雅卿
あゝ三瀬川ゝ
　　後白河院小侍
百ゝ
　　前関白
我ゝ
　　大蔵卿時光

河内国やまとむらふるくんいんをとゝあへさせ
給ふ中に
前大納言為世
おもふかのあうをあとゝもにのこしてとこ
建武二年内裏ふくゝ[illegible]とさてゝ
ふるさとのこゝろをもとゝ[illegible]
てつゝまつりける
[illegible]河法師
正中二年百首[illegible]
[illegible]
[illegible]

しをそこなうひく姫を忘れ
ぬ人しんと　　已心院前摂政太政大臣
なひさこ姫いまそに妙なる風をふく　　三條院御宮内卿
百そ子をそさしつりし時寄恋
恋をとふとうつせ川よ袖こひさ方乃ふかさに　　大納言隆実母
恋のうちとてしまも世ぬけり
しを海のあまも忘れやさ袖をかなりもうしも神ぬれそふる　　法皇御製
人心なふたなとてう姫ほのふるふるのつくさと
加元百そ子ふるあそさつりけり時恋
ふかひひ恋て月ひとつふ子ひんのうふるれ　　後山中前太政大臣
月ちす
掃そもあひみとうふひふ毎えあ人のう春り　　前参議雅有
元亨三年七月七日亀山殿七百首に奇に
恋恋
もそそふ恋をとひうあんつきうさう海ふ　　権中納言為明
月ちす
年重法師

手ぬぐいをかぶせてみる
ぬるい池の